

杉江先生の指導講評から学んだことは？

「深い学び」の具体的な姿を知りたいと思っていました。今日、知識・技能にとどまらない学びと伺い、見えてきそうな気がしました。具体的なことはこれからですが。

当たり前のことですが、知識の習得が目的ではない。

何度も言われていたことだが、値打ちをしっかりと伝えと生徒の意欲や学習の活発度が違ってくるということ。P. Pは必要などころのみ使用して、やたらと使わないようにしていきたい。

「生徒が自分たちで考え、動き、学ぶための仕掛けをするのが教師」の言葉に、いつも、しっかり準備しなさいと激励されていてありがたいです。

・振り返り ・貢献 自分⇄仲間

振り返りはあくまで自分に向けての評価

指導ではなく、学習（アクティブラーニング）へ、学びの意識を変えていくこと。生徒が主体的に生き生きと学ぶこと。これからしっかり自分自身学んでいきたいと思ひます。

まだ 100%杉江先生の話がわかるレベルになれていないと実感しました。自分の授業を改善して、せめて話が分かるくらいにはなりたひと思ひます。

話し合いにバラバラ参加してもよい。参加が遅れても考えていたらよい。後で参加してくる。振り返りのテーマを設定し、授業の振り返りを行う。仲間の良さに気付く振り返り。

集団の振り返りのやり方等、実践しようと思ひ学びがありました。深い学びになるよう、仕掛けをつくっていかうと思ひました。

今やっている活動が次にどうつながるのかを意識する。

生徒が自分から動ける仕掛けづくりなど、端的に示されたことをまず実践するところからはじめます。

「なぜそうなるの？」「～であるのになぜ～だろう？」の言葉が出せる授業構成を組んでいきたいと思ひました。「指導」が「教育」ではないと再認識させていただきました。

・生徒はどうしても先生に頼ってしまうのでペア、グループで分からないところなどを解決できるような授業にしていきたいです。
・振り返りシートの記入は、今日はこれについて書こうなど、ポイントを決めて書かせるようにしていきたいです。

・単元の最後に分かるようになるための道筋をしっかりと立てることが重要だと改めて感じました。
・「次の学びに向かうため」という意識を持って、生徒が毎時の振り返りを行えるように働き掛けたいと思ひます。

・モデル（ヒント）により生徒が「自分でできた」と思える達成感を感じられるようにすること。
・生徒が「なるほど！」と納得するような説明をすることが教材研究である。
・学習に対する理解度は様々だけど、単元終わりにできるようになればよい。そこで、自宅学習があるなと思えばそれはよいこと。

・知識、理解から一歩踏み出した学習課題の設定。
・パワーポイントの使い方…読み取る時間を設ける。

協同学習の基本的構成要素、「個人の責任」、目からうろこでした。

・導入の説明は長くてもよいが、考えさせる間をつくること。
・P.P.読まなくてもよい。生徒に読み取らせるだけでもOK！
・振り返りは自分への評価。これが次の学びにつながる。

なぜ？を大切にする。

これまでの内容（指導）の再確認ができた。

・「深い学び」の「深い」について。 ・P.P.のデメリット。（メモする時間、読み取る時間） ・成功体験ができる支援。 ・生徒同士をつなげることの重要性。（教師を頼らない。）

- ・子どもに学びの価値、ゴールを明確に示す。
- ・50分間フル活脳を目指した授業の組み立て。
- ・近付いて話すしくみ。(机配置、座り方)

「こうすると分かりやすいでしょう」「このことが次の何につながっていくのか」ということをいつもはじめの段階できちんとつなげていくようにしたい。学ぶ価値の意欲付けをしっかりと話す。

さらに相手に伝える場面でより伝わりやすくするために感想を言う。要約をする。意見を伝え合うというところにおいて、自分の評価として、話すスキル、聞くスキルをアップするための評価を継続して取り入れていきたい。

一回一回の学習に真剣に取り組む姿勢として、授業前後の挨拶を礼儀正しく清々しいものにする。
(なれ合いやダラダラを見逃さない態度)
課題意識を持って伝え合うためにも、本日の学習課題を十分に検討して、自分自身も、生徒の現状をも考慮しながら、納得いくものにしていく。

振り返りのマンネリ化を防ぐ工夫。
・仲間に向けて ・仲間のよかった点 ・クラスの雰囲気 ・〇〇について書こう

生徒が明確に理解し、実践し、自己評価することのできる学習課題を工夫し、設定すること。

今、私の授業で、学習課題はおろか、めあてすらも書かないときがある。というのも、なぜ、めあてを毎回明確にしなければならぬのか理解していなかったからだ。今日初めて、学習課題の重要性、振り返りの意義を少し知れた気がした。今年度はもう少ししかなく、自分一人では簡単に取り組めないことから、校内で話し合い、来年度に変わるようになればと思う。

- ・横のつながりでの活動。 ・セレモニー廃止。
- ・子ども達の1時間の変化で評価をする。
- ・低位の子への支援。(一人でできたを増やす)
- ・問題ができた以外での評価。

・全員が何を何のために話し合うのかを理解するよう伝える。
・役割分担の工夫。(まとめ、反論、あまのじゃく等) ・時間厳守 ・学習規律の設定

深まりのある、追求したくなる、挑戦したくなる、力を合わせがいのある、学ぶ値打ちのある学習課題づくり

研究協議や指導講評を受けて、共通実践の取り組みについて振り返り、「めざす授業の姿」に近づぐためにあなたが実践することとは？

学校で共通した方がいいと思うこと
・教科書等を置く位置(机に) ・班で話し合いをするときの形 ・聞くとき、書くとき、見る時等のけじめ ・学習しやすい環境づくり

・谷川中学校において、研究テーマを職員全員で共有すること。→情報の発信
・自分たちで作り上げる研究課題の設定。「全員で実践すること」

「單元ごとのマップチャレンジ」「学ぶ値打ちが分かる」を継続して意識していきたい。見通しがもて、興味がわき、なおかつ、互いの思考を出し合う中で最良の結論を見いだす仕掛けを、そして、その留意点を意識して心得たい。

学習課題の設定、工夫、もっと深まりのあるものにしていく。生徒が主体的に活動していくことができるような指示の明確さ。グループ活動での役割、何のためにするのかという指示を明確にしていく。

・生徒が、やること分かり、それにあわせて自分で活動できること。
・目標を伝える。分かりやすく、具体的に。
・ゆっくりあせらず、1つずつ順番に。
・「なぜ」の話し合いを大切にする。
・仲間に対する自分の貢献を経験させる。

・單元構想：長期的、短期的な目標を明確にすること。その中で子ども達に付けさせたい力をはっきりと生徒に示すこと。問題が解けたとけなかったではなく、「ここまで分かった!」「なぜ?」など、次につながる問題や発問の工夫。
・挨拶など、学習規律の徹底。

自分の結果は自分に向けて、自分で自分を評価する。学習課題の設定。

・単元の第1時の工夫。セレモニーの廃止。
・ゴールまでの設定、見通し。
・普段の授業、全員で。

「なぜ」を説明する関わり合いの機会を増やす。

それぞれの視点で細かく厳しく分析しておられたのを見て、本校にも取り入れたいと思いました。

・振り返りについて ・学習課題 ・挙手等の指導
・ゴールイメージ(単元、本時) ・セレモニー廃止。

評価の設定の仕方の工夫 → 現在は生徒自身が評価しづらいものも多い。